

社援基発 0306 第 1 号
令和 7 年 3 月 6 日

都道府県
各 指定都市 民生主管部（局）長 殿
中 核 市

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課長
(公 印 省 略)

「社会福祉充実計画の承認等に係る事務処理基準」に基づく別に定める単価等
について」の一部改正について

「社会福祉充実計画の承認等に係る事務処理基準」に基づく別に定める単価等について」(平成 29 年 1 月 24 日付け社援基発 0124 第 1 号社会・援護局福祉基盤課長通知)について、直近の統計等を踏まえ、別添のとおり改正し、令和 7 年 4 月 1 日より適用することとしたので、御了知の上、管内市区町村及び社会福祉法人等関係各方面に周知願います。

なお、本通知は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 245 条の 9 第 1 項及び第 3 項の規定に基づく都道府県及び市が法定受託事務を処理するに当たりよるべき基準として発出するものであることを申し添えます。

(別添)

改正後	改正前
1. 「社会福祉充実計画の承認等に係る事務処理基準」(以下「事務処理基準」という。)の3の(5)の③の規定に基づき、別に通知する建設工事費デフレーターによる上昇率については、別表に掲げるとおりとする<u>とともに</u>、別に定める1㎡当たりの建設等単価については、<u>330,000円</u>とする。 2. 事務処理基準の3の(5)の④の規定に基づき、一般的な自己資金比率として、別に定める割合については、<u>25%</u>とする。 3. 事務処理基準の3の(5)の⑤の規定に基づき、大規模修繕に必要な費用として、別に定める割合については、<u>19%</u>とする。	1. 「社会福祉充実計画の承認等に係る事務処理基準」(以下「事務処理基準」という。)の3の(5)の③の規定に基づき、別に通知する建設工事費デフレーターによる上昇率については、別表に掲げるとおりとする<u>とともに</u>、別に定める1㎡当たりの建設等単価については、<u>290,000円</u>とする。 2. 事務処理基準の3の(5)の④の規定に基づき、一般的な自己資金比率として、別に定める割合については、<u>24%</u>とする。 3. 事務処理基準の3の(5)の⑤の規定に基づき、大規模修繕に必要な費用として、別に定める割合については、<u>23%</u>とする。

改正後			改正前		
(別表)			(別表)		
年度	建設工事費 デフレーター (建設総合指数)	2023 年と比較した 伸び率	年度	建設工事費 デフレーター (建設総合指数)	2022 年と比較した 伸び率
1960 以前	18.8	<u>6.559</u>	1960 以前	18.8	<u>6.394</u>
1961	20.8	<u>5.928</u>	1961	20.8	<u>5.779</u>
1962	21.2	<u>5.816</u>	1962	21.2	<u>5.670</u>
1963	21.8	<u>5.656</u>	1963	21.8	<u>5.514</u>
1964	22.8	<u>5.408</u>	1964	22.8	<u>5.272</u>
1965	23.5	<u>5.247</u>	1965	23.5	<u>5.115</u>
1966	25.2	<u>4.893</u>	1966	25.2	<u>4.770</u>
1967	26.7	<u>4.618</u>	1967	26.7	<u>4.502</u>
1968	27.7	<u>4.451</u>	1968	27.7	<u>4.339</u>
1969	29.4	<u>4.194</u>	1969	29.4	<u>4.088</u>
1970	31.3	<u>3.939</u>	1970	31.3	<u>3.840</u>
1971	31.7	<u>3.890</u>	1971	31.7	<u>3.792</u>
1972	34.6	<u>3.564</u>	1972	34.6	<u>3.474</u>
1973	43.7	<u>2.822</u>	1973	43.7	<u>2.751</u>
1974	51.8	<u>2.380</u>	1974	51.8	<u>2.320</u>
1975	52.4	<u>2.353</u>	1975	52.4	<u>2.294</u>
1976	56.8	<u>2.171</u>	1976	56.8	<u>2.116</u>
1977	59.2	<u>2.083</u>	1977	59.2	<u>2.030</u>
1978	62.4	<u>1.976</u>	1978	62.4	<u>1.926</u>
1979	69.2	<u>1.782</u>	1979	69.2	<u>1.737</u>
1980	75.4	<u>1.635</u>	1980	75.4	<u>1.594</u>
1981	75.7	<u>1.629</u>	1981	75.7	<u>1.588</u>
1982	75.9	<u>1.625</u>	1982	75.9	<u>1.584</u>

改正後			改正前		
1983	75.9	<u>1.625</u>	1983	75.9	<u>1.584</u>
1984	77.6	<u>1.589</u>	1984	77.6	<u>1.549</u>
1985	77.2	<u>1.597</u>	1985	77.2	<u>1.557</u>
1986	76.7	<u>1.608</u>	1986	76.7	<u>1.567</u>
1987	78.1	<u>1.579</u>	1987	78.1	<u>1.539</u>
1988	79.6	<u>1.549</u>	1988	79.6	<u>1.510</u>
1989	83.8	<u>1.471</u>	1989	83.8	<u>1.434</u>
1990	86.7	<u>1.422</u>	1990	86.7	<u>1.386</u>
1991	88.9	<u>1.387</u>	1991	88.9	<u>1.352</u>
1992	90.1	<u>1.368</u>	1992	90.1	<u>1.334</u>
1993	90.6	<u>1.361</u>	1993	90.6	<u>1.327</u>
1994	90.9	<u>1.356</u>	1994	90.9	<u>1.322</u>
1995	91.0	<u>1.355</u>	1995	91.0	<u>1.321</u>
1996	91.2	<u>1.352</u>	1996	91.2	<u>1.318</u>
1997	91.9	<u>1.342</u>	1997	91.9	<u>1.308</u>
1998	90.2	<u>1.367</u>	1998	90.2	<u>1.333</u>
1999	89.3	<u>1.381</u>	1999	89.3	<u>1.346</u>
2000	89.5	<u>1.378</u>	2000	89.5	<u>1.343</u>
2001	88.0	<u>1.401</u>	2001	88.0	<u>1.366</u>
2002	87.1	<u>1.416</u>	2002	87.1	<u>1.380</u>
2003	87.6	<u>1.408</u>	2003	87.6	<u>1.372</u>
2004	88.6	<u>1.392</u>	2004	88.6	<u>1.357</u>
2005	89.7	<u>1.375</u>	2005	89.7	<u>1.340</u>
2006	91.5	<u>1.348</u>	2006	91.5	<u>1.314</u>
2007	93.8	<u>1.314</u>	2007	93.8	<u>1.281</u>
2008	96.8	<u>1.274</u>	2008	96.8	<u>1.242</u>
2009	93.4	<u>1.320</u>	2009	93.4	<u>1.287</u>

改正後			改正前		
2010	93.5	<u>1.319</u>	2010	93.5	<u>1.286</u>
2011	94.7	<u>1.302</u>	2011	94.7	<u>1.269</u>
2012	94.1	<u>1.310</u>	2012	94.1	<u>1.277</u>
2013	96.5	<u>1.278</u>	2013	96.5	<u>1.246</u>
2014	99.8	<u>1.235</u>	2014	99.8	<u>1.204</u>
2015	100.0	<u>1.233</u>	2015	100.0	<u>1.202</u>
2016	100.3	<u>1.229</u>	2016	100.3	<u>1.198</u>
2017	<u>102.2</u>	<u>1.206</u>	2017	<u>102.3</u>	<u>1.175</u>
2018	<u>105.5</u>	<u>1.169</u>	2018	<u>105.6</u>	<u>1.138</u>
2019	108.0	<u>1.142</u>	2019	108.0	<u>1.113</u>
2020	<u>107.9</u>	<u>1.143</u>	2020	<u>108.0</u>	<u>1.113</u>
2021	113.2	<u>1.089</u>	2021	113.2	<u>1.062</u>
2022	120.2	<u>1.026</u>	2022 以降	120.2	<u>1.000</u>
<u>2023 以降</u>	<u>123.3</u>	<u>1.000</u>	(例) 2000 年度に建設した建物の建設単価等上昇率は、 <u>1.343</u> となる。		
(例) 2000 年度に建設した建物の建設単価等上昇率は、 <u>1.378</u> となる。					